



さわらっしゅ!

—佐原PJ、立て続けに二つの試み—

Sawa-rush!

- Two Different Trials by the Sawara PJ Team -

佐原PJでは10月11日～13日の大祭に合わせて研究結果の展示会、そして11月2日3日に子どものあそび場に関する社会実験を行いました。これらの活動の報告に合わせこれからのPJの目標を紹介いたします。

text_takanashi



さがそう! まちなかのあそびのタネ



▲昔の遊び、ながらを体験



▲まちなかを知る体験

失われた遊び場の価値

11月2日(土)3日(日)にはPJチームによって「さがそう! まちなかのあそびのタネ」WSが開催されました。調査の結果無くなってしまっていることわかったまちなかの遊びにどのような学びや楽しみがあるのかを調べるのが目的でした。計21人の小学生たちがクイズに答えながらまち歩きをし、町家のミセ空間でおじいさん方から話を聞き、昔には存在したまちなかの遊びを体験してもらいその反応を見ました。台風による延期、高齢者の方の不在、子どもに対してのヒアリングの難しさなど困難はつきまसेんでしたが、遊び場の必要性を強く感じるものでした。

まちなかの場を探して

10月11日(金)～13日(日)の3日間は佐原の大祭に合わせて今年度の調査結果を馬場酒造さんの蔵をお借りして展示しました。今年の調査は過去に調べていた観光客の回遊行動と対比するように住民の活動範囲と小学生の遊び場を空間的に落とし、三者のそれぞれの場がどう分布している、どこにそれらが接する可能性があるのか探るものでした。他にも以前提出したコンペ案の展示や参加者のお気に入りの場所をお聞きする参加型展示も行いました。会場である昨年改築した蔵自身の魅力が強かったこともあり、1000人を超える方にいらしてもらえました。



▲調査結果を説明する



▲お借りした蔵



▲参加型展示の様子



佐原の今展

▲にぎわう展示会場

佐原PJの目指すところと今回の活動の位置づけ

佐原のまちなかが抱えている課題の一つは伝統的建造物群保存地区で典型的な地区内外の乖離であると考えます。地区内は観光客のためだけのものとなりテーマパーク化が進みがちです。

その中で一つの目標は、「佐原の今展」で展示した住民と観光客の場の関係の調査結果をさらに充実させ、それを元に整備方針を立て、複数整備予定地のある市役所に提案することです。展示会ではその中間報告に対して広く意見を伺うことと、さらなるヒアリングを行いました。

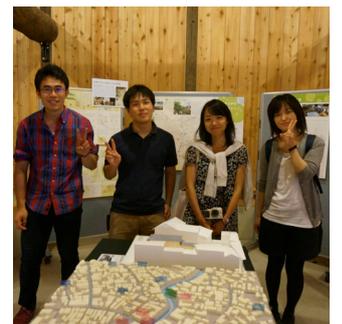
もう一つの目標は8月のコンペで提案した「こどもだむ」の実現です。小学校区のととも広い佐原小では車で帰る子どもが多く、友達と遊ぶことが難しくなっています。私たちの提案では小学校に隣接するまちなかでお迎えの時間まで子どもをためこみ遊ばせる仕組みを作ります。今回はまちなかの遊びの持つ意味や難しさが明らかになりました。



▲住民と観光客のお気に入りの場所



▲こどもだむのダイアグラム



M2の先輩方(小笠原、柏原、越村)はこれらにて佐原PJ引退となります。長い間お疲れ様でした!

OB・OGめぐり第15弾!

The News From OB・OG of UD Lab. Vol.15

都市デザイン研究室のOB・OGの方々に、卒業後の仕事や活動に関して寄稿していただく企画です。第15回目の今回は、平成20年に修了された日建設計の伊藤雅人さんです。

【都市を良くする何でも屋】

日建設計 伊藤 雅人さん

組織設計事務所の都市計画系部署の仕事を一言でいえば、「都市を良くするために、建築設計の枠を超えたあらゆる提案、課題解決を行う」でしょうか。付け加えるなら、「比較的ハードな視点で、比較的大規模なスケールで」、です。「あらゆる」と書いた通り、仕事は多岐に渡ります。大規模民間再開発のプロマネ、行政のまちづくりコンサル、基盤施設設計、交通処理計画、、何でも屋と言ってしまっても良いかもしれません。その中でも設計事務所ならではの、私も現在担当している開発新興国でのアーバンデザイン業務です。

これから都市開発が進行する数十～数千haのまとまったエリアの将来像を描く仕事です。世界中の様々な新興国でプロジェクトが進んでいますが、そのスケール、スピード感は日本のそれとは大きく異なります。圧倒的な急成長を遂げる都市の中であって、大味な、ハイライズが乱立するようなまちにならないよう、丁寧にまちの文脈を読み解いて、人にやさしい、人のためのヒューマンな都市空間を提案できるよういつも苦心しています。

先日まで参加していたのは、上海都心部 25ha の都市デザインコンペでした。まずやったのは対象敷地周辺をくまなく歩き回り、古地図を開き、その地に根付く文脈を紐解くこと。「まちを歩かなければ始まらない」のはまさに都市デザイン研究室流のアプローチ。次はどの国でまち歩きが出来るかと、いつも楽しみに仕事をしています。



▲コンペ中間報告会。マイクを持っているのが私です。



▲まずはまちを歩くことから始まります。

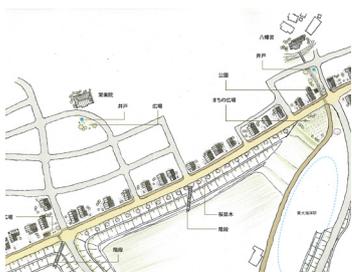
プロジェクト報告

大槌 Otsuchi-project プロジェクト

M1 中心で大槌の場づくりに没頭します。

text_segawa

11月4日(月)と5日(火)に黒瀬助教、M1 瀬川・道喜で大槌の現地訪問をしてきました。今回の訪問では、①現地に入っている都市コンサルの方と協同で行っている吉里吉里の若布作業のための場づくりの今後についての打ち合わせ、②赤浜の仮設の談話室の方々へのヒアリング、③12月に赤浜で行う予定の、地元の住民の方々との公共空間に関するワークショップのご相談を赤浜の公民館長と行うなど、主に地元の方々や大槌に力を注いでいるみなさまとお話をさせていただきました。今後のプロジェクトの方針として、吉里吉里地区では若布作業場づくりと赤浜地区では公共空間のワークショップという二本立てで進めていく予定です。大槌プロジェクトのメンバーはM1の二人だけなので人手不足の感は否めませんが、大槌の場づくりに少しでも貢献できたらと考えています。



▲赤浜 WS 用の平面イメージ



▲吉里吉里の若布作業所敷地予定地

名著を味わう

Appreciating Masterpieces

定期的に行われている読書会のご紹介です。

text_takanashi

5月に始まった有志読書会では最初に設定した19冊の仮目標の半分を読破しました。とある飲み会の席にての学部時代に読み損ねていた都市計画の名著をちゃんと読み込みたいという話がかきかけで始まったこの会は、現在中島先生、M1 瀬川・道喜・高梨、B4 柄澤・益邑、国際研の商さんで行われています。二週間に一回各メンバーは指定の図書を読んだ上で集まり、うち二人が用意したレジュメをで発表を行います。そこで本の大枠を把握したら後は自由です。理解できなかった概念、本についての仮説、気に入ったフレーズなどについて議論していき、時節中島先生から、著書の背景やどのような意味があったかの解説を交えていただきながら理解を深めていきます。最後にその著書の核心は何だったのか全員でまとめていきます。味わうことを大切にしているこの会は理解に妥協がなく、同時にとても楽しい会であります。



▲本についてのマニアックな笑いが響きわたる



▲机に本が積み上がる人も

11月・12月の予定

Information

11月14日	第8回研究室会議
11月15日～25日	ルンビニ PJ 現地調査
11月30日～12月2日	大槌 PJ 現地調査
12月6日～8日	清水 PJ 現地調査
12月5日	M2 修士論文中間発表
12月18日 20:00～	忘年会 @ 鳳明館

編集後記

高梨 遼太郎

外気はいきなり寒くなって参りましたが皆様の体調はいかがでしょうか。高梨はより清潔な男になるべく先日電動鼻毛カッターなるものを買いました。その隙無さにびっくりしていたのですが、それ以来なんだかのがイガイガしていて鼻毛の外気に対するフィルター機能を実感しております。家庭教師先のお母さんにハープ入りのウォッカをいただきながら一生懸命治していますが、皆様も体調とハイテク機器の使い過ぎにはご注意ください。